

# 論語とMG

顧問 堀田友三郎（東海学園大学名誉教授）  
日本経営倫理学会シニアアドバイザー

戦略MGはなぜ40年以上もヒットしているのか？

# 『論語と算盤』から『論語とMG』へ

- 2024年には渋沢栄一の新一万円札が登場する
- 「日本資本主義の父」と呼ばれる渋沢栄一
- 渋沢は合本主義、多くの出資者で企業を設立
- 人びとの富に永続性を持たせることが大事
- 企業には利益追求は当然、道徳が持続可能性のために必要である「論語と算盤」

# 渋沢栄一翁が新一万円札になる



# 思想のある経営

- 思想の根底には『論語』がある
- 『論語』は人の生きる道、道徳、考え方などが述べられている
- 『論語と算盤』は「利潤と道徳を調和させる」という経済人がなすべき道を示した書物である
- 道徳と経済が並行した生き方が大事である
- 『思想のある経営』西順一郎著（ソーテック社刊）の副題にある「変化を継続する者は勝つ」は至言、根底には『論語』

# 道徳経済合一説

- 富をなす根源は何かといえ、仁義道徳、正しい道理の富でなければ、その富は完全に永続することができぬ
- 孔子は、義に反した利はこれを戒めているが、富貴を賤しむる言葉は、みな不義の場合に限っている
- 「公益の追求」⇒「自利利他」
- アダム・スミス（1723～1790）イギリスの哲学者・経済学者  
人間は自分勝手に利己的な生き物なのに、なぜ道徳的に振る舞えるのか、人間には他者と共感し、哀れみや同情を抱く能力がある

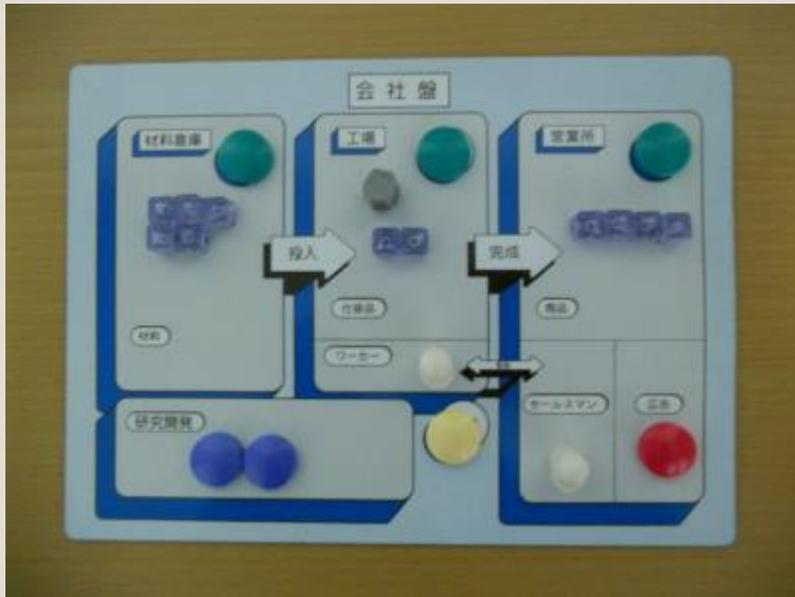
# 士魂商才の精神

- 『武士道』（新渡戸稲造著）とは「支配階級である武士が自分の態度を決定するとき、不善・不義・背徳・無道を避け、正義・仁義・徳操に従って行動すること」を指す
- 武士に武士道が必要であったように商工業者にもまた商人道がなくてはならない。
- 「士魂商才」武士道のような崇高な精神（士魂）は大事だが、経済活動には商才が必要である
- 商才もまた道徳を根底としている才能である。

# 論語は素読で学ぶ 経営はMGで学ぶ

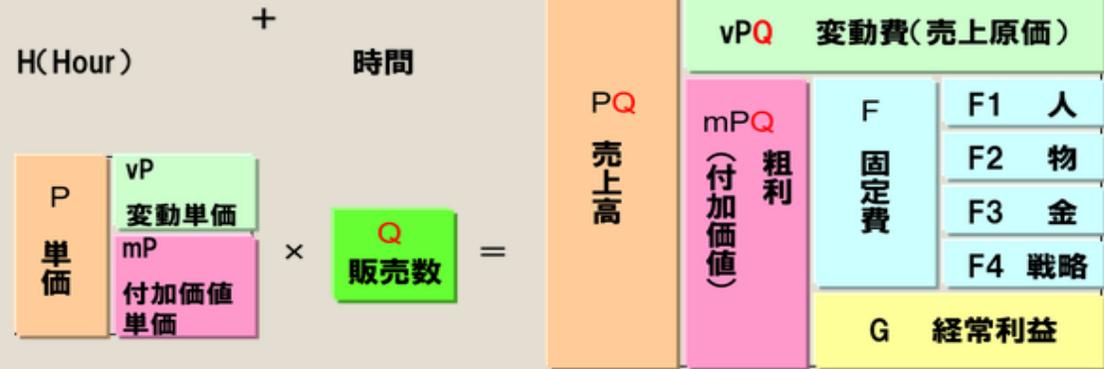
- 寺子屋では毎日、論語の素読をした
- 子どもは素読をして自分が主役になることで学ぶ
- 伊與田覚「素読は天命に通じる先覚の書を、自分の目と口と耳とそして皮膚を同時に働かせて吸収するのです。これを読書百篇で繰り返し繰り返し続けることによって、自ずから自分の血となり肉となるのです。それが時あって外に滲み出ると風韻となり、そういう人格を風格というのです」
- 経営はMGを繰り返し繰り返し体験することで経営感覚を身に染み入らせることができる

# 戦略MGで戦略会計STRACを学ぶ



## 戦略会計STRAC®で利益感覚とコスト感覚を習得

- P(Price) 単価
- vP(variable ratio) 変動単価(単価に変動比率をかけたもの)
- mP(marginal ratio) 付加価値単価(単価に粗利率をかけたもの)
- Q(Quantity) 販売数
- F(Fixed Cost) 固定費
- G(Gain) 経常利益
- H(Hour) 時間



# 知・好・楽

- 『論語』 雍也第六「子曰、知之者不如好之者、好之者不如樂之者」
- 子のいわく、これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず
- 先生がいわれた。「知っているというのは好むのに及ばない。好むというのは楽しむのに及ばない」
- 戦略MGを知っているだけではダメで、好きになり、楽しむようにならない。
- 結果として良い経営者になることができる・